

按○中今多出於勢州多氣郡者莞草全用編之細密因稱目狹

〔骨董集上編中〕女の編笠 塗笠

編目の細密なるを目狹と稱すいはゆる伊勢編笠なり

〔東海道名所記〕老たる若き男女伊勢あみがさあふみすげがさをきたるもあり

〔京童〕四條河原

見物の男女老たる若きあるひははたのそりたる伊勢あみがさをかぶりかたりのうすものにまどぶもあり

〔正章千句〕第九 初冬落葉

二階の月に狂ひやむ袖

破れより露もる著笠目せきがさ

〔好色一代男六〕全盛歌書羽織

男は本奥島のはやりで女郎も衣装つき洒落て墨繪に源氏紋断もちひさくならべて袖口も黒く裾も山路も取るぞかしそれまでは目關笠畦足袋に紅の紵紐今の素足に見合せ笑しき事も

おつて過ぎ侍る○下

〔守貞漫稿二十九〕目關笠極上製價金一分二朱バカリ

〔和漢三才圖會二十六〕臺笠○中

按○中出江州愛智郡者莞拔去燈心用空皮編之其笠深大者名熊谷笠

〔昔昔物語〕延寶の比熊谷笠こそそう杯はやり○下

〔我衣〕天和比ヨリ武士熊谷笠ヲ冠ル引通シヒモ白シ役者古來ハ一文字笠ヲカムル是ヨリクマガイニナル享保年中ヨリ丸キ儘ニテカムル醫師武士計リナリ町人ハ不用